

— 礼拝にふさわしい聖書を —

聖書 聖書協会共同訳

特徴と実例

2018年12月刊行予定



一般財団法人 日本聖書協会

目次

新しい聖書の特徴

(一) スコパス理論 礼拝にふさわしい聖書	1
(二) 共同訳事業の継続	2
(三) 変化に対応する	2
(四) 過去の業績を大切にする新訳	2
(五) 注付き	2

実例

(一) 新しい底本	2
(二) 新しい聖書学の成果を生かす	3
旧約聖書	3
新約聖書	10
(三) 簡潔で締まった日本語を	14
(四) 日本語の変化に対応	15
(五) 差別的表現、包括言語、など	16
(六) 最新の聖書考古学、植物学、動物学の成果を生かす	17
宝石	17
人造物	18
動物	18
表	20
訳文比較	21
組版サンプル	22

聖書協会共同訳について

日本聖書協会は、『聖書 新共同訳』（一九八七年）

の次世代となる『聖書 聖書協会共同訳』の翻訳を

二〇一〇年に開始し、二〇一八年十二月出版を目指して翻訳を進めています。

翻訳開始に先立ち、カトリック教会を含む一八の諸教派、団体が議員を送り、「共同訳事業推進計画諮問会議」が開かれました。二〇〇九年一〇月六日の最終回では「¹翻訳方針前文」を採択しました。この「前文」を採択した一八教派・団体の信徒の合計数は、日本国内のクリスチャン人口の七五%となりますので（『キリスト教年鑑』二〇〇九年度版）、この前文に表現されている翻訳聖書は、諸教会によって求められている聖書と言えるでしょう。その「前文」の重要な点を挙げて、『聖書 聖書協会共同訳』（以下、聖書協会共同訳）の幾つかの基本理念と特徴をお伝えいたします。

新しい聖書の特徴

（一）スコプス理論 礼拝にふさわしい聖書

過去の聖書翻訳の歴史には、意訳がふさわしい、あるいは直訳がふさわしいという対立がありました。この度の聖書翻訳では、スコプス理論という枠組みを取り入れました。それは、意訳か直訳かということではなく、読者対象と目的（ギリシア語で「スコプス」）に合わせて翻訳をすべきであるというものです。上述の「翻訳方針前文」によると、諸教会の指導者は、教会の礼拝にふさわしい聖書を求めています。そこで、この度の聖書翻訳は、礼拝で朗読される聖書を目的（スコプス）としました。

1 日本聖書協会ホームページ「新翻訳事業について」のコーナーで公開しています。 <http://www.bible.or.jp/know/know31.html>

(二) 共同訳事業の継続

新共同訳聖書は、カトリック、プロテスタントの違いを超えた初めての共通の聖書として広く用いられてきました。聖書協会共同訳も新共同訳に続き、カトリックとプロテスタントが力を合わせて翻訳作業に取り組んできました。

(三) 変化に対応する

日本聖書協会は、明治元訳（一八八七年）、大正改訳（一九一七年）、口語訳（一九五五年）、新共同訳（一九八七年）と約三十年おきに聖書を改訂、あるいは新たに翻訳してきました。およそ三十年おきの翻訳というのは、他の国の聖書協会でも見られることです。三十年たつと、言語が変化すること、聖書学、写本研究、考古学が進展し、新たな知見が多く加わることがその理由です。聖書協会共同訳も、そのような変化に対応しています。

(四) 過去の業績を大切にする新訳

聖書協会共同訳は、新共同訳の改訂ではなく原文から

の新たな翻訳です。同時に、口語訳や新共同訳を中心に、これまでの過去の和訳聖書の歴史と業績の上に立つ翻訳です。

(五) 注付き

聖書協会共同訳では、底本を離れる場合の「異読」、他の翻訳聖書と解釈が大きく異なる場合の「別訳」、また、「言葉遊び」、などの脚注を付けます。脚注については、巻末の組見本を御覧ください。

実例

前述のような基本理念をどのように実現するのか、具体例を挙げてご説明します。なお、訳文は最終的なものではなく、今後改訂される予定です。

(一) 新しい底本

聖書協会共同訳の底本は、旧約が¹B¹H¹S、分冊が出版されていればB²H²Q、新約がネストレ²⁸版に基づくU³B³S第五版、そして続編がゲッティンゲン版です。

(二) 新しい聖書学の成果を生かす

聖書協会共同訳の原語担当翻訳者や、原語担当編集委員は日本の聖書学を担っている方々です。最新の聖書学の成果が随所に表されています。以下にそのごく一部をご紹介します。

旧約聖書

①「神のかたち」(創世記一27)

「神のかたち」は、長い間、人間の尊厳を表す重要な言葉とされてきました。また、過去百年程は、人格的応答や人間の使命を表しているとも考えられてきています。最近では古代中近東の研究の発展によって、新たな知見が加わりました。人間が「神のかたち」に造られたとは、人間が世界を正しく治めるために造られたという視点です。

神は人を自分のかたちに創造された。

神のかたちにこれを創造し

男と女に創造された。

〔聖書協会共同訳〕

「かたち」と訳されたヘブライ語の「ツエレム」は

七十人訳ギリシア語旧約聖書ではエイコーンと訳されました。そのエイコーンが、新約聖書では、キリストとキリスト者を指して使われています。

(キリストは) 見えない神のかたち (エイコーン) (コロ一15)

(信仰者は) 主と同じかたち (エイコーン) に
変えられていきます (二コリ三18)

世界を正しく治めるべく造られた人間は、アダム以来、罪のためにその務めを十分に果たせないできました。しかし、キリストが罪のない人として来られて、世界を正しく治め始めてくださいました。そして、キリスト者もキリストに似せて変えられ、最後には、キリストと共に世界を治めるようになる(黙二二5)とあります。ツエレムとエイコーンの訳語として、統一して「かたち」を用いたことで、創世記から黙示録を貫く一つのメッセージがより明らかにになりました。

1 「ピブリア・ヘブライカ・シュトットガルテンシア」

2 「ピブリア・ヘブライカ・クインタ」

3 「ギリシア語新約聖書」(聖書協会世界連盟編)

4 「ギリシア語旧約聖書」(ゲッティンゲン研究所)

②「私はいる」(出エジプト記14)

この箇所「わたしはある」という有名な神の名は、神が永遠の存在であることを示すものとして大切にされてきました。この訳は、使徒たちや初代教会が親しんでいた七十人訳ギリシア語旧約聖書の「エゴ・エイミ」という言葉に基づくものです。この度、聖書協会共同訳では、ヘブライ語の「エヘイエ」とその前後関係に注目し、「私はいる」と訳しました。ヘブライ語聖書ですぐ前の文脈を見ますと、「エヘイエ・インマク」(私はいる・あなたと共に)(三12)という神の言葉があります。

¹²すると、神は言われた。「私はあなたと共にいる(エヘイエ・インマク)。これが、私があなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山で神に仕えることになる。」¹³モーセは神に言った。「御覧ください。今、私はイスラエルの人々のところに行つて、『あなたがたの先祖の神が私をあなたに遣わされました』と言うつもりです。すると、彼らは『その名は何か』と私に問うでしょう。私は何と彼らに言いましょ。」¹⁴神はモーセに言われた。「私はいる(エヘイエ)、と

いう者である。」そして言われた。「このようにイスラエルの人々に言いなさい。『私はいる』(エヘイエ)という方が、私をあなたがたに遣わされたのだと。」¹⁵重ねて神はモーセに言われた。

「このようにあなたはイスラエルの人々に言いなさい。『あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が私をあなたがたに遣わされました。』これこそ、とこしえに私の名、これこそ、代々に私の呼び名。

〔聖書協会共同訳〕

モーセに現れた神は、アブラハム、イサク、ヤコブに現れて契約を結んだ神であり、その契約に従つてイスラエル人と共にいて、エジプトから導き出す神です。そのような文脈とヘブライ語の「エヘイエ」に注目し、この度の聖書協会共同訳では、従来とは違う「私はいる」という翻訳にしました。

③「相続」(申命記一五4)

新共同訳の旧約聖書には、嗣業(ナハラ)という言葉が使われていました。^{しぎよう}

あなたの神、主は、あなたに嗣業^{しぎよう}として与える

土地において、必ずあなたを祝福される

〔新共同訳〕

新約ではナハラにあたるのがクレーロノミアで、その訳語として「相続」、「受け継ぐ」が使われています。この度、「嗣業」ではなく、新約ですでに使われている訳語を使うことになりました。

あなたの神、主が相続地としてあなたに所有させる地で、主は必ずあなたを祝福される

〔聖書協会共同訳〕

旧約聖書では、イスラエルの民が約束の地を相続したのですが、実はそれは、イエスを信じる新しい神の民が、世界を相続することを指し示していました。

世界の相続人になるという約束が、アブラハムやその子孫に対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるのです。（ロマ四13）

〔聖書協会共同訳〕

旧・新約の訳語を統一したことで、旧・新約を貫く救いの計画がより明らかになりました。

④「地上に置かれた」（詩編八2）

詩編八2は新共同訳ではこのように訳されています。

主よ、わたしたちの主よ

あなたの御名は、いかに力強く

全地に満ちていることでしょう。

天に輝くあなたの威光をたたえます。

この節の「天に」の直前には、アシエルという関係代名詞があるのですが、その代名詞が長い間解決されない問題でした。そのため、今までの訳は、アシエルに続いている「置く」という動詞と合体させて、「（ほめ）たたえます」という別の動詞に変えて翻訳してきました（口語、新改訳2017も同様です）。しかし、この読みを支持する写本は一つもありません。また、理解できないアシエルを無視して訳す聖書もあります。聖書協会共同訳では、このアシエルが、関係副詞としても使われていることに注目し（詩八四4、九五8、9、民二〇1）、無理に動詞と合体させず、「そこに」と単純に訳しました。原文では、直前に「全地」があるので、「そこ（全地）」に置いた、天上の威厳を」としたのです。また、神の威厳が天と地にあるというのは、詩編一四八13にも記されています。その結果、現在の訳は次のようになっていきます。

主よ、我らの主よ

御名は全地でいかに力強いことか。

あなたは天上の威厳を

この地上に置(かれた)

この訳は、詩編八編全体としても一貫性のある訳となつています。原文どおりに読もうとする努力の結果、長い間解決できなかった本文上の問題を解決することができました。

⑤「空」(コヘレトの言葉一一一—10)

一九七〇年代までは、著者コヘレトは世をはかなむ厭世主義者で懷疑主義者と見なされてきました。そのため、一一一—10においても、7節の明るい表現が懷疑的な文脈の中に埋没し、「分かったものではない」(2節)、「時けない」「できない」(4節)、「分からない」「分かるわけではない」(5節)、「分からないのだから」(6節)、という懷疑的表現で訳されています。また、新共同訳は8節までと、10節も区切りと見ます。それは、いずれの段落も「空しい」で終わるからです。また、「コヘレトの言葉」全体が、格言の羅列でしかないという考えがあったために、小見出しも付けられないという判断がなされたものと思われます。

新共同訳

- 1 あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。
月日がたつてから、それを見いだすだろう。
- 2 七人と、八人とすら、分かち合つておけ
国にどのような災いが起こるか
分かつたものではない。
- 3 雨が雲に満ちれば、それは地に滴る。
南風に倒されても北風に倒されても
木はその倒れたところに横たわる。
- 4 風向きを気にすれば種は蒔けない。
雲行きを気にすれば刈り入れはできない。
- 5 妊婦の胎内で霊や骨組がどの様になるのかも分
からないのに、すべてのことを成し遂げられる神の
業が分かるわけではない。
- 6 朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな。
実を結ぶのはあれかこれか
それとも両方なのか、分からないのだから。
- 7 光は快く、太陽を見るのは楽しい。
- 8 長生きし、喜びに満ちているときにも
暗い日々も多くあろうことを忘れないように。

何が来ようとすべて空しい。

聖書協会共同訳

9 若者よ、お前の若さを喜ぶがよい。

青年時代を楽しく過ごせ。

心にかなう道を、目に映るところに従って行け。

知っておくがよい

神はそれらすべてについて

お前を裁きの座に連れて行かれると。

10 心から悩みを去り、肉体から苦しみを除け。

若さも青春も空しい。

しかし、現在では、「コヘレトの言葉」は一貫した思

想的論調の書として解釈されるようになりました。そこ

で、聖書協会共同訳では、文節は1―6節、7―8節、

9―10節と分かれます。7節の「光」「太陽」は一二章

2節と対応して囲い込み（インクルージオ）を形成して

いるので、一一7―一二2を一つの段落と見なします。

この7節から段落が変わるので、「造り主を心に刻め」

という小見出しがついています。

1 あなたのパンを水面^{みなも}に投げよ。

月日が過ぎれば、それを見いだすからである。

2 あなたの受ける分を七つか八つに分けよ。

地にどのような災いが起こるか

あなたは知らないからである。

3 雲が満ちれば、雨が地に降り注ぐ。

木が南に倒れても、北に倒れても

その倒れた場所に木は横たわる。

4 風を見守る人は種を蒔けない。

雲を見る人は刈り入れができない。

5 あなたはどこに風の道があるかを知らず

妊婦の胎内で骨がどのようにできるかも

知らないのだから

すべてをなす神の業は知りえない。

6 朝に種を蒔き

夕べに手を休めるな。

うまくいくのはあれなのか、これなのか

あるいは、そのいずれもなのか

あなたは知らないからである。

造り主を心に刻め

7 光は快く、太陽を見るのは目に心地よい。

8 人が多くの年月を生きるなら

これらすべてを喜ぶがよい。

しかし、闇の日が多いことも思い起こすがよい。

やって来るものはすべて空である。

9 若者よ、あなたの若さを喜べ。

若き日にあなたの心を楽しませよ。

心に適う道を

あなたの目に映るとおりに歩め。

だが、これらすべてについて

神があなたを裁かれると知っておけ。

10 あなたの心から悩みを取り去り

あなたの体から痛みを取り除け。

若さも青春も空だからである。

聖書協会共同訳では、1―6節の否定的表現については、ヘブライ語の接続詞キーに注目し、「〜からである」と訳されています。「知らない」（2節）、「知らない」（6節）はコヘレトの否定的な結論ではなくて、むしろ

理由や根拠を説明しています。コヘレトの結論は「あなたの受ける分を七つか八つに分けよ」（2節）、「朝に種を蒔き／夕べに手を休めるな」（6節）という命令です。地に災いが起こるかもしれないからこそ、受ける分（神から与えられているもの）を皆で分け合いなさい。どの種が実を結ぶか分からないからこそ、朝から晩まで手を抜かずに種を蒔きなさい、という意味となります。コヘレトは懷疑主義者ではなく、将来がどうなるか分からないからこそ、逆に、今、最善を尽くすよう語ります。そしてコヘレトは、すべてが「空しい」と考える厭世主義者ではないので、ヘブライ語のヘベルは新共同訳のように「空しい」と訳されるより、口語訳のように「空」と訳されるほうがむしろ適切と考えました。従来訳よりも、原典に即して「コヘレトの言葉」の重要なニュアンスを生かし、そこから意味を汲み取ることができるとする翻訳となっています。

⑥ 「人生を見つめよ」（コヘレト九9）

愛する妻と共に楽しく生きるがよい。

〔新共同訳〕

この文はコヘレトが厭世主義者でないことを示す箇所

の一部で、他の邦訳も基本的に同じように訳しています。

あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。

〔新改訳2017〕

あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい。
い。

〔口語訳〕

しかし、「楽しむ」「楽しく」と訳されたラアは、「見る」という言葉で、「楽しむ」という意味はありません。この書では、「楽しむ」という言葉は、スィムハヤトブという他の語が使われています。ラアを「楽しむ」と訳したのは、「コヘレトの言葉」全体から、また、直接の文脈から意味をとって訳した訳で、他の国の訳もほぼそのように訳しています。しかし、この度、原語の意味をそのまま生かす翻訳としました。

さあ、あなたのパンを喜んで食べよ。

あなたのぶどう酒を心楽しく飲むがよい。

神はあなたの業をすでに受け入れてくださった。
た。

いつでも衣を純白に

頭には香油を絶やさないように。

愛する妻と共に人生を見つめよ

空である人生すべての日々を。

それは、太陽の下、空であるすべての日々に
神があなたに与えたものである。

それは、人生において太陽の下でなされる

労苦によってあなたが受ける分である。

（コヘ九7―9） 〔聖書協会共同訳〕

今までの常識にとらわれず、原語に近づく努力をした結果、今までと違い、「愛する妻と共に人生を見つめる」という、味わいのある訳となりました。

⑦ 「誇る」（箴言三二30）

この箇所は伝統的に、主を畏れる女性が「たたえられ」と訳されてきました。

主を畏れる女こそ、たたえられる。

〔新共同訳〕

主を恐れる女はほめたたえられる。

〔新改訳2017〕

主を恐れる女はほめたたえられる。
〔口語訳〕

しかし、ヘブライ語の「ハラル」のヒトパエル形は、「誇る」という意味で、他の箇所ではそのように訳されています。「たたえられる」と訳されているのはこの一箇所だけです。恐らく、主を畏れる女性が誇るのはふ

さわしくないと考え、訳を工夫したのでしよう。しかし、「心のまつすべしな人は皆、誇ることができません」（詩六四11）とあるように、主を畏れる人は、主にあって誇ることができません。そこで、今回、次のように原語の本来の意味で訳しました。

あでやかさは偽り、美しさは空しい。
主を畏れる彼女こそ、誇ることができる。

〔聖書協会共同訳〕

伝統にとらわれずに原語に近づく努力をした結果、今までと違ったメッセージが伝わるようになりました。

新約聖書

①「上がっているとき」（マルコ10）

従来訳は、イエスの受洗に伴って起こった出来事を、水から上がった後の出来事として訳しています。

水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。

〔新共同訳〕

イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのを

ご覧になった。」

〔新改訳2017〕

しかし、原文では「彼は見た」という短い主文に三つの現在分詞がかかっています。これは主文の動詞と同時に起こった出来事を指しています。つまり、水から上がりつつイエスが見ると、天が裂けつつ、鳩が下りつつあったのです。そこで、聖書協会共同訳は次のように、ダイナミックな描写となりました。

そしてすぐ、水から上がっているとき、天が裂けて、霊が鳩のようにご自分の中へ降って来るのを御覧になった。

〔聖書協会共同訳〕

②「横になって」（ヨハネ1312）

従来訳では、イエスが弟子たちの足を洗うと、再び席に着く、と訳しています。

さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまふと、上着を着て、再び席に着いて言われた。

〔新共同訳〕

イエスは彼らの足を洗うと、上着を着て再び席に着き、彼らに言われた。

〔新改訳2017〕

しかし、「席に着く」と訳されたギリシア語の「アナピプトー」は「横たわる」という意味です。当時の食事

は、横臥してとったからです。「席」と訳すとテーブルの椅子に着くような現代的なイメージになりますので、この度、当時の文化が伝わる訳としました。

こうしてイエスは弟子たちの足を洗うと、上着を着て、再び横になって言われた。

〔聖書協会共同訳〕

③「慕う」(ヨハネ二17)

ヨハネによる福音書の最後の章で、イエスはペトロに「私を愛しているか」と三度尋ねられます。しかし、最初の二回はアガパオー、三回目はいレオーと動詞が違います。従来訳の多くは、その違いを訳出していませんが、聖書協会共同訳はいレオーを「慕う」として、違いを表しました。

三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、私を慕っているか。」ペトロは、イエスが三度目に「私を慕っているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。私があなたをお慕いしていることを、あなたは知っておられます。」

〔聖書協会共同訳〕

④「キリストの真実」(ローマ三22)

この節は従来、以下のように訳されてきました。

すなわち、イエス・キリストを信じることによ
り、信じる者すべてに与えられる神の義です。

〔新共同訳〕

すなわち、イエス・キリストを信じることに
よって、信じるすべての人に与えられる神の義
です。

〔新改訳2017〕

しかし、ピステイス・クリストウという句は、両義的で、「キリストへの信仰」、あるいは、「キリストの真実」という意味があり、文脈によつて訳し分けるべきであることが明らかになってきました。ローマ三21―26は、「神の義」がテーマですので、ここでは「キリストの真実」と訳すことにしました。

神の義は、イエス・キリストの真実を通して、
信じる者すべてに現されたのです。

〔聖書協会共同訳〕

この訳ですと、救いが神の業であり、神がアブラハムへの約束を守る正しい方であることが、浮き彫りになっ

てきます。三27以降は、信仰義認が主題となりますので、「信仰」となります。ちなみに、ギリシア語では、従来22節で「与えられる」と訳された箇所には動詞はありません。動詞を補って訳出する場合は、21節の「現される」を補うべきですので、そのように改訂されています。以下に、聖書協会共同訳の三21―31を引用しました。ゴチックは小見出しです。

神の義が現された（三21―26）

しかし今や、律法を離れて、しかも律法と預言者によって証しされて、神の義が現されました。神の義は、イエス・キリストの真実を通して、信じる者すべてに現されたのです。そこに差別はありません。人は皆、罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、神の恵みによって、キリスト・イエスによる贖いを通して、^{あた}価なしに義とされるからです。神は、イエスを立てて、その真実によって、その血による贖いの座となさいました。それは、これまでに犯されてきた罪を見逃して、ご自身の義を示すためでした。神が忍耐してこられたのは、今こ

の時にご自身の義を示すため、すなわち、ご自身が義となり、またイエスの真実に基づく者を義とするためでした。

信仰による義（三27―31）

それでは、誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り去られました。どんな法則によつてですか。行いの法則によつてですか。いや、信仰の法則によつてです。私たちが考えるには、人は律法の行いなしに、信仰によつて義とされるからです。

⑤「恥を受けることがない」（ローマ一〇11）

主を信じる者は、だれも失望することがない。
〔新共同訳〕

この方に信頼する者は、／だれも失望させられないことがない。
〔新改訳2017〕

この節は、イザ二八16からの引用です。「失望する」と訳されたカタイスキュノーの第一の意味は恥を受けるというものです。「主に信頼する者は、恥を受けることがない」というのは、詩一九16など、旧約聖書に度々

語られている内容です。この度、ギリシア語本来の意味と、旧約引用であることの性質を考え、次のように訳しました。

主を信じる者は、恥を受けることがない。

〔聖書協会共同訳〕

聖書協会共同訳では、旧約聖書の新約聖書における引用箇所を一つひとつ見直しています。

⑥ 「霊が妬みに燃える」(ヤコブ四5―6)

ここは解釈の難しい箇所として有名です。文脈が大切ですので、少し長く引用します。新共同訳からの引用ですが、口語訳、新改訳2017も基本的には同じ解釈です。

¹ 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。² あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができません。争ったり戦ったりします。得られないのは、願ひ求めないからで、³ 願ひ求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おう

と、間違った動機で願ひ求めるからです。⁴ 神に背いた者たち、世の友となることが、神の敵となることだとは知らないのか。世の友になりたいと願う人はだれでも、神の敵になるのです。⁵ それとも、聖書に次のように書かれているのは意味がないと思うのですか。「神はわたしたちの内に住まわせた霊を、ねたむほどに深く愛しておられ、⁶ もっと豊かな恵みをくださる。」それで、こう書かれています。「神は、高慢な者を敵とし、／謙遜な者には恵みをお与えになる。」

〔新共同訳〕

5節の「神はわたしたちの内に住まわせた霊を、ねたむほどに深く愛しておられ」という部分が1―4節の文脈と合わず、理解が困難です。しかも、5―6節が引用している聖書箇所は他のどこにも見当たりません。そこで、聖書協会共同訳では、その箇所に関わる別の写本を採択しました。すると以下のように理解しやすくなります。

⁵ それともあなたがたは、聖書が空しい言葉で語っていると思うのですか。私たちの内に宿った霊が、妬みに燃えるのです。⁶ しかし神は、

それにまさる恵みを与えてくださいます。そこで聖書はこう語るのです。「神は、高ぶる者を退け／へりくだる者に恵みをお与えになる。」

〔聖書協会共同訳〕

つまり、次のような意味になります。「あなたがたの間で争いがあるのは、心の中に争う欲望があり、自分の霊が妬みに燃えているからだ。だが、聖書にあるように、『神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお与えになる。』このように、従来訳では難解であつた箇所が、理解できるようになりました。

⑦「ゝの間」(黙示録五6)

今までの訳は

わたしはまた、玉座と四つの生き物の間、長老たちの間に、屠られたような小羊が立っているのを見た。

〔新共同訳〕

となつています。新改訳2017は、「四つの生き物の真ん中、長老たちの真ん中」となつています。小羊が、それぞれの間、あるいは真ん中に立っていると表現されているので、小羊が二人おられるような印象を与え、いずれも理解しにくい表現です。この「間」あるい

は「真ん中」と訳されたギリシア語は「エン・メソー」です。ヘブライ語では、「エン・メソー」にあたる言葉「ベイン」を二度使つて、「ゝとゝの間」と表現します。

つまり、二つの「間」で一つの「間」を言い表しています。黙示録の著者はセム語の影響を受けていることが知られていますが、その著者がセム語的に「エン・メソー」を二度使つたと考えられます。そこで、聖書協会共同訳では、より理解しやすくなっています。

さらに私は、玉座およびそれを囲む四つの生き物と、長老たちとの間に、小羊が屠られたような姿で立っているのを見た。

〔聖書協会共同訳〕

(三) 簡潔で締まった日本語を

聖書協会共同訳では、歌人、詩人、文学者、日本語学者などの日本語担当者が、最初から原語担当者トペアになつて、自然で簡潔な日本語にするよう努力しています。簡潔さという点では、単語レベルでは、例えば、次のような変化があります。

①詩編七10

詩編七10は口語訳では次のように訳されていました。

どうか悪しき者（ラシャ）の悪を断ち、

正しき者（ツァディク）を堅く立たせてください。
〔口語訳〕

新共同訳は、この意味をより分かりやすく伝えるために次のように訳しました。

あなたに逆らう者を災いに遭わせて滅ぼし
あなたに従う者を固く立たせてください。

〔新共同訳〕

聖書協会共同訳では、簡潔で締まった訳文を目指しているため、多くの論議の末、口語訳の訳語が復活することになりました。

悪しき者の悪を絶ち

正しき者を堅く立たせてください。

〔聖書協会共同訳〕

同じ理由から、「恵みの御業」（ツェデカ）は、「義」あるいは「正義」となり、「主の慈しみに生きる者」（ハスイド）は、「主に忠実な者」となります。例えば、詩三六7は次のようになります。

恵みの御業は神の山々のよう

あなたの裁きは大いなる深淵。

〔新共同訳〕

あなたの正義は神の山々のよう
あなたの公正は大いなる深淵。

〔聖書協会共同訳〕

その他、文章全体としても、自然さ、また、簡潔さを目指しました。21ページの「訳文比較」にある、詩編二三編を御覧ください。詩編二三編では、口語訳の「いこいのみぎわ」を採用しています。

（四）日本語の変化に対応

以前には、一般的でなかった言葉が、この三十年で多くの人が使うようになっていきます。そのような日本語の変化に対応しています。例えば、

①マタイ二三23

この箇所は以下のように訳されました。

薄荷^{はっか}、いの^{ういきょう}んど、茴香の十分の一は献げるが、

律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はない
がしろにしているからだ。
〔新共同訳〕

おまえたちはミント、イノンド、クミンの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要

なものの、正義とあわれみと誠実をおろそかにしている。

〔新改訳2017〕

いのもと、茴香^{ういきやう}を理解できる人は現代は少数です。そこで、

あなたがたは、ミント、デイル、クミンの十分の一は献げるが

〔聖書協会共同訳〕

としました。デイルもクミンも料理に使われるスパイスとして広く知られてきたためです。

(五) 差別的表現、包括言語、など

聖書協会共同訳では、不快と思われる言葉遣いを減らす努力をしています。

① 「お前」(エレミ21)

新共同訳は、「お前」という言葉を、自然な日本語を目指したために多く用いました。

主は言われる。わたしはお前に怒りの顔を向け
ない。

〔新共同訳〕

しかし、聖書協会共同訳では、神やイエスが発する言葉には「お前」を使わないことにしました。

主の仰せ。私は怒りの顔をあなたがたに向けな

い。

〔聖書協会共同訳〕

ただし、対象が人ではない場合、例えば、物や町は、例外となります。そこで、実を結ばないいちじくの木に對しては、次のようになります。

今から後いつまでも、お前には実がならないように(マタ二19)

② 「はしため」(サム上18)

過去の邦訳聖書では「はしため」が使われてきました。

ハンナは、「はしためが御厚意を得ますように」と言つてそこを離れた。

〔新共同訳〕

彼女は、「はしためが、あなたのご好意を受けられますように」と言つた。

〔新改訳2017〕

しかし、聖書協会共同訳では、「はしため」は差別的であるとして、「仕え女^{つかめ}」としました。

ハンナは言つた。「あなたの仕え女^{つかめ}が恵みにあずかれますように。」

〔聖書協会共同訳〕

③ 「もてなす」(マタイ815)

イエスがその手に触れられると、熱は去り、

しゅうとめは起き上がってイエスをもてなした。
〔新共同訳〕

イエスは彼女の手に触れられた。すると熱がひき、彼女は起きてイエスをもてなした。

〔新改訳2017〕

この箇所、「もてなした」と訳されるディアコネオーは「仕える」、食事の文脈では「給仕する」と訳される言葉です。しかし、癒やされたしゅうとめがイエスにしたことは、給仕だけとは限らないことから、聖書協会共同訳では、「仕えた」としました。

イエスが手に触れると、熱は引き、しゅうとめは起き上がってイエスに仕えた。

〔聖書協会共同訳〕

(六) 最新の聖書考古学、植物学、動物学の成果を生かす

これらの学門の発展により、今まで分からなかった動植物名や、人が作った物などがはつきりして来ました。そこで、より正確な訳語を目指しました。

宝石

①「ラピスラズリ」(出エジプト記二八18)

聖書協会共同訳では宝石の訳語も見直しました。古代の宝石類の同定は困難ですが、最新の研究の成果を参考に改訂を加えています。出エジプト記二八章の宝石のリストの第二列は従来次のように訳されてきました。

第二列　ざくろ石　サファイア　ジャスパー

〔新共同訳〕

第二列はトルコ石、サファイヤ、ダイヤモン
ド。

〔新改訳2017〕

従来サファイヤとされていた「サピール」は、最新の研究ではラピスラズリとされています。聖書協会共同訳では次のように、改訂されます。

第二列はくじやく石、ラピスラズリ、縞めの
う。

〔聖書協会共同訳〕

その他の変更となった宝石名の一覧を20ページに載せていますので、御覧ください。

人造物

① 麦の酒（レビ一〇九）

「シェカル」、「スイケラ」は、今まで「強い酒」と訳されてきました。

あなたであれ、あなたの子らであれ、臨在の幕屋に入るときは、ぶどう酒や強い酒を飲むな。

〔新共同訳〕

会見の天幕に入るときには、あなたも、あなたとともにいる息子たちも、ぶどう酒や強い酒を飲むではならない。

〔新改訳2017〕

しかし、「シェカル」、「スイケラ」は、古代のエジプトやメソポタミアといった穀倉地帯で作られていたビールを指すことが分かってきました。当時は、蒸留酒はなかったのです。そこで、より正確に次のように訳しました。

会見の幕屋に入る時には、あなたもあなたの子らも、ぶどう酒や麦の酒を飲むではない。

〔聖書協会共同訳〕

② 箕（農用フォーク）（マタイ三12）

この箇所は、次のように訳されています。

手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし

〔新共同訳〕

また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃きよめられます。

〔新改訳2017〕

古代中近東では、竹で編んだ箕を、麦をふるうためには使っていませんでした。使っていた「ミズレ」と「プトゥオン」は、現在の農用フォークにあたるものです。

そこで、本文を「箕」とし、「農用フォーク」は脚注に記しました。

その手には箕がある。そして、麦打ち場を掃き清め（脚注に「農用フォーク」）

〔聖書協会共同訳〕

その他の変更となった人造物の一部の名称を20ページに載せていますので、御覧ください。

動物

① ばった（出エジプト記一〇四）

いなごは旧約聖書の中でエジプト全土の作物を食べ尽くした昆虫、また新約聖書の中で洗礼者ヨハネの食物として出てきます。

もし、あなたがわたしの民を去らせることを拒

み続けるならば、明日、わたしはあなたの領土にいなごを送り込む。〔新共同訳〕

もしあなたが、わたしの民を去らせることを拒むなら、見よ、わたしは明日、いなごをあなたの領土に送る。〔新改訳2017〕

昔は、いなごは、ばったを含む広い意味を持っていたが、最近では、より厳密な使われ方をしています。そのため、「いなごは日本特有の種を指すので、誤訳である」との指摘を長く受けてきました。そこで、「アルベ」は、いなごより倍近く大きいサバクトビバッタなどを指しますので、より正確に「ばった」としました。

もしもあなたが私の民を去らせることを拒むのなら、私は明日、あなたの領土にばったを送り込む。〔聖書協会共同訳〕

②毒蛇（マタイ三7）

ここは次のように訳された有名な箇所です。

蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。〔新共同訳〕

まむしの子孫たち、だれが、迫り来る怒りを逃れるようにと教えたのか。〔新改訳2017〕

しかし、日本特有のママシは中近東にはいません。「ツェファ」はエジプトコブラかサバククロコブラです。ので、コブラとしました。新約聖書の「エキドナ」は「毒蛇」とし、注に「クサリヘビ」と記しました。

毒蛇の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、誰が教えたのか。（脚注に「クサリヘビ」）〔聖書協会共同訳〕

その他の変更となった動植物の一部の名称を次ページに載せていますので、御覧ください。

以上、具体的な例を見ました。その他、ここでは取り上げなかった多くの変化や、改善点があります。なお、今後さらに微調整していきますので、訳文は最終的なものではないことをご了承ください。

原語	新共同訳	聖書協会共同訳
宝 石		
旧 約		
ノフェク	ざくろ石	くじゃく石
サピル	サファイア	ラピスラズリ
ヨホロム	ジャスパー	縞めのう
タルシシュ	藍玉	かんらん石
ショハム	ラピスラズリ	カーネリアン
エクダハ	エメラルド	輝く石
ブドラハ	琥珀	ブドラク香
ゼコキト	宝玉	ガラス
新 約		
サルディオン	赤めのう	カーネリアン
トパズィオン	黄玉	トパーズ
クリュソブラソス	ひすい	緑玉髓
人造物		
イエケル、レノス	酒ぶね	搾り場
プスィノス	麻の布	高価な亜麻布
カルコリパノー	しんちゅう	青銅
植 物		
ロト	没薬	シスタス香
アハリム	アロエ	沈香（じんこう）
ベドラハ	琥珀	ブドラク香
モル	ミルラ	没薬
ドゥダイム	恋なすび	マンドレイク（脚注）
アビヨナ	アビヨナ	ケツパー
アバティア	メロン	すいか
アラバ	柳	ポブラ
動 物		
ツェビー	かもしか	ガゼル
テオ	かもしか	オリックス（脚注）
オシュ、セス	しみ（紙魚）	衣蛾（脚注）

ローマの信徒への手紙

挨拶 あいさつ

1 キリスト・イエスの僕(しもべ)として召され、神の福音のために選ばれたパウロからあらかじめ約束されたものであり、御子に関するものです。御子に肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば死者の中からの復活によって力ある神の子と定められました。この方が私たちの主イエス・キリストです。この方を通して、私たちは恵みを受けて使徒とされました。それは御名のためにすべての異邦人の間に信仰の従順をもたすためです。あなたがたも異邦人の中にあつて、召されてイエス・キリストのものとなったのです。——ローマにいる、神に愛され、聖なる者として召されたすべての人たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。

ローマでの宣教の願いせんきようねが

819 はじ
初めに、私は、イエス・キリストを通して、あな
いちどう わたし
たがた一同について私の神に感謝します。あなたがた

訳文と組版は最終的なものではなく、今後さらに改訂される場合があります。

の信仰が全世界に告げ知らされているからです。
 9 私がどれほど絶え間なくあなたがたを思い起こし
 ているかは、御子の福音によって、私が心から仕えて
 いる神が証人です。10 私は、祈る度にいつも、神の御
 心によって、いつかはあなたがたのところに行くこと
 ができるように願っています。11 あなたがたに会いた
 いと切に望むのは、幾らかでも霊の賜物を分け与え
 て、あなたがたを力づけるためです。12 いやむしろ、
 あなたがたのところで、あなたがたと私が互いに持っ
 ている信仰によって、共に励まし合いたいのです。
 13 27 きょうだいたちよ、あなたがたにぜひ知っておいて
 ほしい。私は何度もあなたがたのところへ行こうと計
 画しましたが、今まで妨げられてきました。ほかの異
 邦人の間で得たのと同じように、あなたがたの間で
 も、いくばくかの実りを得たいのです。14 私は、ギリ
 シヤ人にもギリシア人でない人にも、知恵ある者にも
 知恵のない者にも果たすべき責任があります。15 そ
 れで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ
 知らせたいのです。

福音の力

16 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもた

[illegible]

訳文比較

詩編二三編

聖書協会共同訳

- 1 主は私の羊飼ひ。
私は乏しいことがない。
- 2 主は私を緑の野に伏させ
憩いの汀に伴われる。
- 3 主は私の魂を生き返らせ
御名にふさわしく、正しい道へと導かれる。
- 4 たとえ死の陰の谷を歩むとも
私は災いを恐れない。
- あなたは私とおられ
あなたの鞭と杖が私を慰める。
- 5 私を苦しめる者の前で
あなたは私に食卓を整えられる。
- 私の頭に油を注ぎ
私の杯を満たされる。
- 6 命あるかぎり
恵みと慈しみが私を追う。
- 私は主の家に住もう
日の続くかぎり。

新共同訳

- 1 主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。
- 2 主はわたしを青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴い
- 3 魂を生き返らせてくださる。
- 主は御名にふさわしく
わたしを正しい道に導かれる。
- 4 死の陰の谷を行くときも
わたしは災いを恐れない。
- あなたがわたしと共にいてくださる。
- あなたの鞭、あなたの杖
それがわたしを力づける。
- 5 わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
- わたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を溢れさせてくださる。
- 6 命のある限り
恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
- 主の家にわたしは帰り
生涯、そこにとどまるであろう。

新改訳2017

- 1 主は私の羊飼ひ。
私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ
いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ
御名のゆえに、私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ、死の陰の谷を歩むとしても
私はわざわいを恐れません。
- あなたが、ともにおられますから。
あなたのむちとあなたの杖
それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに、あなたは私の前に食卓を整え
頭に香油を注いでくださいます。
- 私の杯は、あふれています。
- 6 まことに、私のいのちの日の限り
いつくしみと恵みが、私を追って来るでしょう。
- 私はいつまでも、主の家に住みます。

らす神の力だからです。17 神の義は、福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰へと進ませます。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

人間の罪

18 神の怒りは、不義の行いによって真理を妨げる人々のあらゆる不敬虔や不義に対して、天から啓示されます。19 7 なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らには明らかだからです。神が彼らに明らかにされたのです。20 神の見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造以来、被造物を通してはつきりと認められるからです。したがって、彼らには弁解の余地がありません。21 なぜなら、彼らは神を知りながら、神として崇めることも感謝することもせず、かえって自分たちの議論によって空しくなり、その無分別な心は闇に閉ざされたからです。22 彼らは自ら知恵ある者だと称しながら愚かになり、23 10 不滅の神の栄光を、滅ぶべき人間や鳥や獣や地を這うものをかたどった像に替えたのです。

24 それゆえ神は、人が心の欲望のままに汚れた行いをするのに任せられ、人は互いにその体を辱めるようになりしました。25 人は、神の真理を偽りに替え、造り主の代わりに被造物を拜んでこれに仕えたのです。

26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485	1486	1487	1488	1489	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514	1515	1516	1517
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

聖書 聖書協会共同訳 ——礼拝にふさわしい聖書を—— 特徴と実例

2018年1月1日 発行

2018年2月1日 第2刷発行

著作・発行

一般財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

お問い合わせは、日本聖書協会翻訳部まで。

Fax: 03-3562-7227

E-mail: pilot@bible.or.jp



『聖書 聖書協会共同訳』 翻訳者・編集委員による論文集、講演録のご案内

『New 聖書翻訳』 No.1 (2014年5月1日発行)

講演

- ・新共同訳とフランシスコ会訳から学ぶ (和田 幹男)

論文

- ・旧約学の動向と聖書翻訳 (大島 力)
- ・聖書翻訳で直面する初歩的な問題—旧約篇— (小林 進)
- ・聖書を演じることと翻訳—多義性の問題— (石川 立)
- ・日本語における「省略」の考え方 (石黒 圭)

『New 聖書翻訳』 No.2 (2015年12月10日発行)

講演

- ・それでも新聖書翻訳 (津村 春英)

論文

- ・旧約詩編の新翻訳に関する覚え書き (飯 謙)
- ・パウロにおけるピステイスの意味—イエスの信仰とわれわれの信仰— (阿部 包)
- ・第二パウロと真正パウロ—新共同訳における対応箇所の翻訳問題— (辻 学)
- ・聖書のなかの接続詞—口語訳聖書と新共同訳聖書の比較から— (石黒 圭)
- ・日本聖書協会所蔵 文語訳、大正改訳、文語訳改訂、口語訳聖書翻訳資料について (吉田 新)

エッセイ

- ・聖書翻訳に携わってみて (松永 美穂)

『New 聖書翻訳』 No.3 (2017年8月15日発行)

講演

- ・新翻訳聖書の魅力—旧約詩文学を実例として— (小友 聡)

論文

- ・言語に忠実な訳か文化を超えて解釈する訳か・名訳とは (浦野 洋司)
- ・旧約聖書における親族・部族用語の意味論 (高橋 洋成)
- ・イナゴ、バッタについて (小林 進)
- ・ヤコブ3:6aの解釈をめぐる (住谷 眞)
- ・大正改訳新約聖書稿本について (吉田 新)

エッセイ

- ・言葉の両義性 (柴崎 聰)

資料

- ・聖書翻訳におけるプロテスタントとカトリックの共同作業のための指針 (1987年改訂版)
(日本聖書協会 訳)

◆各巻 本体価格1,200円

『聖書事業懇談会講演録 1』 (2017年12月1日発行)

- ・聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために— (石川 立)
- ・それでも新聖書翻訳 (津村 春英)
- ・新しい聖書翻訳の課題と展望 (樋口 進)
- ・原文の味・訳文の味 (柊 暁生)
- ・新しい聖書翻訳を目指して—葛藤と喜びのうちに (阿部 包)
- ・新聖書翻訳の魅力—旧約詩文学を実例として— (小友 聡)

◆本体価格400円

